

## 旧広島市民球場跡地委員会第2回検討グループ会議 議事要旨

### 1 開催日時

平成24年3月12日(月) 午後2時55分～午後4時40分

### 2 開催場所

市役所本庁舎14階 第7会議室

### 3 出席者

#### (1) メンバー

メンバー12名中11名出席(杉野委員欠席)

#### (2) 事務局(市)

都市活性化局長、都市活性化局次長、旧市民球場跡地担当課長、担当職員

### 4 議事

#### (1) 今後の進め方の確認

市が資料に基づき説明した。

#### (2) 旧市民球場跡地活用のテーマとなる考え方、評価の視点の整理

各委員が旧市民球場跡地活用のテーマとなる考え方、評価の視点について発言した。  
発言要旨は別添のとおり

### 5 公開・非公開の別

公開

### 6 配付資料

資料1 旧広島市民球場跡地委員会の今後の進め方

資料2 第1回検討グループ会議での議論を踏まえた旧市民球場跡地活用のテーマについての整理案

参考資料 これまでの旧市民球場跡地委員会で出された意見やアイデア

## 7 発言要旨

### 旧市民球場跡地活用のテーマとなる考え方、評価の視点の整理

山野井座長

ここからは、旧市民球場跡地活用のテーマとなる考え方、評価の視点の整理に入る。

前回の検討グループ会議では、球場跡地にどのような機能や役割を担わせるべきかということを中心に意見交換を行い、その結果は、先ほど説明があったとおり事務局の方で、資料2に整理していただいた。そこでは、御覧のとおり、テーマとなる考え方や理念と加味すべき視点がそれぞれ5通りの案に分類されている。

事務局から、今後の進め方についても説明があったように、今後は各アイデアを比較考量することが予定されており、アイデアの比較考量を行うためには、アイデアを評価するためのものさし、評価軸が必要になってくる。

そして、その評価軸の基になるのがこの資料2に書かれているテーマとなる考え方や理念と、それを補完するものとして書かれた加味すべき視点であり、実際には、資料2の下の方に書かれているように、このテーマとなる考え方や理念と加味すべき視点を組み合わせて各アイデアを比較考量していくことになるのだと思う。

そういう意味でも、ここに書かれている理念や加味すべき視点は、非常に重要なものであるため、本日の会議では、この資料をベースに、もう一度皆さんで理念等について確認を含めて掘り下げた議論を行いたい。なお、会議の前半では、テーマとなる考え方、理念について議論し、後半で、加味すべき視点について議論したいと思っている。

それでは、テーマとなる考え方、理念について、この5通りに分類された考え方や理念を前提として、この考え方でいいのか、他の理念はないのかということを確認していきたいと思うが、ここに書かれているテーマとなる考え方や理念は、それぞれが大切な考え方であり、必ずしも一つに限定されなければならないものではないと思っている。

先ほどの事務局からの説明の中で、複数の理念の組合せの話があったが、私は、むしろ、複数の考え方や理念を組み合わせることによって、より多くの人々が納得できるものになるのではないかと考えており、確認に当たっては、複数の考え方の組合せはどうだろうかといった観点からも議論してみたいと考えている。

それでは、資料2のテーマとなる考え方、理念のうち、(1)の「都市像『国際平和文化都市』との関連を持たせるべきである」という考え方、理念から確認していきたいと思う。

御覧のとおり、前回の会議では、アの「『国際平和』に比べて『文化』が弱い」といった意見や、イの「多様な『交流』が大切」といった意見、ウの「広島市全体で『国際平和文化都市』を実現することに寄与する活用」といった意見が出された。

こうした意見を踏まえ、事務局案は、「都市像『国際平和文化都市』と関連を持たせるべきである」というものになっているが、皆さんこれでよろしいか。

また、少し観点を変えて、(1)と(2)の「広島歴史、特性等と関連を持たせるべきである」といった考え方の組合せを考えてみると、私は、それらはすんなりつながるのではないかとと思うが、皆さんどうだろうか。

都市像は抽象的であるため、例えば、「平和」、あるいは「国際」、「文化」といった理念と他の考え方や理念の組合せはどうかと考えた方がイメージしやすいのかもしれないが、私は、いずれの考え方や理念とも(1)の都市像は相性がいいと思うが、こうした点についてはどうだろうか。

渡田委員（提供資料あり）

都市像について、「文化」が弱いという視点は大事であり、また、多様な「交流」も大切である。前回の議論の際に、外国のお客さんに対して効果があるようにという視点があり、加味すべき視点に中枢性もあるが、中四国地方でここにしかないというか、世界から来られてもというような視点を、この「国際平和文化都市」の中で表すのかどうかはあるが、どこかに入れてはどうだろうか。

今回、配付している資料があるため、説明させていただく。旧市民球場跡地利用に関する意見というペーパーを見ていただけるか。

皆の議論より後戻りをして申し訳ないが、我々は観光振興をやっている部署であるため、その観点から言うと、一つには、いろいろ書いており、どこまで盛り込めるかはあるが、劇団四季や神楽、中四国の最大級のものなど、集客性の高い複合施設がまず一つほしい。そして、九州では福岡、近畿では大阪があるように、広島は、やはり中国地方の中枢であり、中四国地方の他の都市では成り立たないが、広島ではある程度採算性も取れる、このくらいの規模のものができるということもあるだろうから、広島ならではのものができればいい。それは、オペラハウスのようなものでもよいが、そこでできることがステータスとなるような、民間に資金協力をお願いしても、そのようなものができるのであれば協力しようと言ってもらえるようなものができればいい。

2点目は、公園という制約があるため、以前からあったような広場ということもあると思うが、そのときには、今までもにぎわいは1年通じてあった方がいいという議論もあったため、大規模な有料イベントをすることができるよう、周りを囲んだり、電気や水道など周辺の施設整備を考えてはどうだろうか。

後は今までも出たが、観光バスの駐車場というのはやはり大事である。今、我々が見てみると観光バスは主に、原爆ドーム辺りで大勢を降ろし、修学旅行生であれば原爆ドームを見て、平和記念公園を南下して資料館に行き、そこで待つバスでまたどこかに行く、あるいは、平和記念公園で弁当を食べてどこかに行くというようなパターンが多い。我々は、駐車場があれば、その逆もあり得ると考えており、資料館から北上して原爆ドームを見てもらい、今回の施設や広場、地下街シャレオの辺りという逆の流れも作ることもできている。駐車場は量も要るが、どういう機能で、どういう役割を持たすのかということも含めて検討してもらったらというのが3点目である。

4点目は、今までも出ているが、歩行者動線をはっきりとさせる必要がある。また、自動車交通処理問題が出ているように、バスセンターのスロープがあるため、どう交通処理をするのかということもきちんと考えておかないと、後で使い勝手が悪いのではないだろうか。

山野井座長

具体的なところは次回以降になるが、こういったことも今後は掘り下げていきたい。

今井委員

今、挙げられている五つに関してだが、先ほど座長が言ったようにどれも外せないものとは考えている。しかし、この中でさらに分類するとなると、例えば、(3)と(5)は特に広島だけの問題ではなく、どの地域にも当てはまる全国共通の問題である。(1)に関しては、これはもちろん広島の問題であり、広島の特性を生かすとなれば、(2)になるのだと思う。

これから広島をアピールしていくための理念になるのだと思うが、私は、最初から(4)の「未来志向の場とすべきである」という提案してきた。他の場所で作られているにぎわいや、皆が集まる場所を真似たとしても意味がなく、また、広島ならではの場所を作るとなると、この球場跡地の場所の特性からは、原爆ドームとの関係性は外せないと考えている。そこを中心に文化を発展させることは次に考えていけばいいのであって、(3)と(5)についても、議論していかなければいけないとは思っているが、私としては、テーマとなる理念、考え方というのは、一つを中心に置き、そこから派生する問題については、次に考えていけばいいのではないかと考えている。

山野井座長

おそらく、この(1)から(5)はどれも外せないものだと思う。これを共通させていくためには、先ほども言ったように、例えば(1)と(2)と(3)を組み合わせたり、(1)と(2)と(4)を組み合わせたりといったいろいろなパターンが考えられるのだと思う。この(1)から(5)の中で、いずれかに特化して広島のまちづくりを考えてみてもなかなか難しく、全て外せないテーマであるため、今後は、これらをつなぎ合わすということがあってもいいのではと考えている。

小松委員

紙屋町二丁目町内会として、山本会長から「広島平和音楽博物館」や、フードバザールといった提案を出させていただいた。どのようなお答えが出たのかは分からないが、やはり、広島市から世界に大きくアピールされたらいいのではないかと考えている。直接、何をするというより、人がどれだけ集まる場所にするかということをお願いしたい。

坂村委員

私も原爆ドームとの関係性を一番に考えて進めていった方がいいのではないかと考えている。何にするかは後の話であるが、(2)にあるような、広島の歴史との関係性や、未来に向けたものにするということが本当に大切になるのではないかと考えている。

山野井座長

(1)から(5)に分けて話を進めようと考えていたが、一つに絞っての議論は難しいため、(1)から(5)についてこれを中心に考えていった方がいいのではないかと、あるいは、(1)と(2)を踏まえてこういった考え方があった方がいいのではないかとといった形で議論いただきたい。

## 佐藤委員

何かの一つの理念に特化した発言ではないが、(1)から(5)まで並んでいる理念については、いずれも重要な理念であり、特に(1)の「国際平和文化都市」、(2)の「広島歴史、特性を生かす」というものは、広島強みというものをより強化していこうという視点であると思う。

そして、(3)、(4)、(5)はそれとはまた、違った考え方でまとめられており、(4)の「未来志向の場とすべきである」というものは、これは平和記念公園との対比という意味でのかなり限定した言葉として使われていると思う。それに比べ、(5)の「将来の社会環境の変化に適應できる」というもの、これもまた、未来志向の一つの表現の仕方であるが、こちらの方は、やや抽象的な感じである。いずれも将来の広島の新しい機能を作るという意味で捉えることができるため、この二つは分けても統合してもよい。(5)の「将来の社会環境の変化に適應できる活用」の中に書いてある、少子化や高齢化、それに対応した交流人口への対応については、単独、あるいは(3)に入れ、四つの柱として整理できるのかもしれない。

もう一つ、最初の強みとして整理されている(2)の「広島歴史、特性等と関連を持たせるべきである」ということの中に、今まで、被爆からの復興であるとか、スポーツ王国というものを大切にするという意見が出ていたと思うが、右側に書いてある中枢性や拠点性の向上を図るといふものもこれは広島歴史から見たときに、非常に重要な考え方ではないだろうか。広島の中枢性というのは、基本的には、近代日本を作っていく最初の過程で、軍事的な拠点になった、第5師団が置かれたということが一つのベースになっており、それを基にいろいろな中枢性が築かれてきたわけである。基を正せばやはり、拠点性や中枢性というのはやはり、広島歴史において非常に重要な性格であると考えている。3番目に書いてある「平和大通りに直交する丹下健三の都市軸を生かす」というものは私が発言したことであるが、ア、イと比べると少し、デザイン的なレベルの表現であるため、そのままでもよいし、(4)の「未来志向の場とすべきである」というところで整理してもよいのではないだろうか。

右側の加味すべき視点であるが、(2)の「都市機能の分担」、(3)の「都市景観」、(4)の「にぎわい」、(5)の「周辺地域との連携」というのはいずれも理念よりはやや下の考慮事項に関する内容であると思うが、(1)の「魅力を高める都市機能」というのは、もっと重要な理念レベルの表現であると考えため、先ほど、中枢性というものはもっと左側に入るようなものではないだろうかということを行ったが、それはそのように整理できないだろうか。

## 渡田委員

事務局に聞きたいのだが、テーマとなる考え方、理念の(5)のイに書かれている「交流人口が増加する」ということについて、そういった努力をしなければならぬのは分かるのだが、これがテーマというのはどうもしっくりこない。この点についてどうお考えなのか。

また、ここは元々、公園であるため、「公園」という言葉がどこかで出てきた方がいいのではないかという気もするが、どうだろうか。

## 杉山旧市民球場跡地担当課長

(5)のところは、一番左のコンセプトにあるように、今後、跡地利用を考えていく上で、「ま

ちづくりの視点」と「長期的な視点」で考えていこうということが、まず、最初にあった言葉である。「長期的な視点」をどう考えていくかというときに、やはり少子高齢化なり、地球温暖化といったグローバルな課題もあるため、これは先ほどもあったように、広島市だけの問題では決していないが、こういった問題もやはりきちんと考えていかなければいけないという意味で、この(5)も入れたものである。佐藤委員も言われたが、(4)と(5)は方向性としては同じものを意味してるため、今日の意見を踏まえ、今後、整理していきたい。

居住人口が減ると、交流人口が増えるということについては、確かにはっきりと言えることではないが、広島市としてこれから高速道路網の整備などに取り組むといったこともあり、今後の長期的な方向性としては、この交流人口の増加は、間違いなく目指すべき方向でもあるため、こういったキーワードを入れさせていただいたものである。

公園については、1回目、2回目の委員会でもあったが、もちろん現状でも制約はあるが、現在でも、委員の方、あるいは市民の方から公園にこだわらない御意見をいただいております、また、公園という制約を外すことも含めて、議論していただいてもいいということでスタートしていることから、この中でも制約条件のことについては、取り立ててふれていない。

#### 山下委員

ここに五つの理念を整理していただいたが、これらは本当に並列で置く内容なのかということでは違和感のある項目もある。

復興のシンボルであった旧市民球場の跡地の活用を考えているわけであるが、その役割を終えて今度は未来に向かってこの場所をどうしていくのかと考えたとき、未来と過去といったときに、未来をベースに(1)であったり、(2)であったり、(3)であったり、(5)であったりというところは、話として展開できるのではないだろうか。そういう意味でも並列で置くというよりは、この(4)の「未来志向の場とすべきである」という理念を柱に据えて考えていってはどうだろうか。

例えば、今の(5)の話であっても、やはり未来志向の場といったときに、これまでも意見の中に、子どもや高齢者の交流の場があってもいいのではないかとといった話もあったと思うが、そういった話も、それは少子高齢化の中で、交流の場を大切にして未来を目指していかなければいけないというようなことにもつながっていくことと考えることができる。(2)の「広島歴史、特性」についても、イの中にある「水」や「多様性」を考えたときに、その「水」の部分での地球環境の保護、そういったものにどう貢献できるものがこの場に作れるのか、そういったものがあるのかどうかといったところで展開できるのではないだろうか。要するに、意見としては、未来志向の場を柱に考え、(4)を除く残りの4項目を展開して整理していくという方法はどうかというものである。

#### 山本委員

私は、うまくできていると思うのだが、その説明として書かれているア、イ、ウにもう少しインパクトがほしいと思っている。また、(1)の中で「国際平和」に比べて「文化」が弱いということは分かっているが、「国際平和」という言葉については、これはどういう意味になるのか、「国際平和」という言葉が皆さんにどのように受け止められるのかということが少し

気になる。

それから細かいことで、恐縮であるが、(2)の「広島歴史、特性」を踏まえるということについて、これもよいとは思っているのだが、今の広島の特性として書かれている「多様性」というものは分かるのだろうか、また、ウの「丹下健三の都市軸の理念を生かす」ということは、都市計画の専門家には分かるのかもしれないが、市民は誰も知らないと思う。この五つに分けた中でも、もう少し分かるように書いた方が、インパクトがあるような書き方がいいのではないだろうか。

(5)は、確かに私が言ったのであるが、少子化や高齢化にどうやって対応するか、果たしてここがそれに対応できる場所になるのかという疑問はある。これは日本全体の問題であるが、特に広島ではこういうことについて、都市の中心部において、それに適応できる新しい場所を作ったと、そういうものを見据えて作ったということがもしできたならば、私は全国における先進事例になるのではないかと考えており、そういう意味でこれは大いに強調してよからうと考えている。

#### 岡野委員

これから出てくるであろういろいろな跡地案に対しては、ここに書いてある考え方や理念、視点で十分である。

#### 吉長委員

テーマとなる考え方について、ズバリ、テーマを何にするか、ミッションを何にするかを考えたときに、平和記念公園の部分と中央公園の部分では役割の分担はおのずと決まっているように思う。

旧市民球場の跡地をどうするかというと、山下委員も言っていたが、我々は「未来志向」というような言葉を使っているが、平たく言えば、「未来が体感できるエリア」、「未来を体感するエリア」にする、そういう分かりやすい言葉の方がいいのではないか。

「国際平和」に比べて「文化」が弱いという発言もあったが、私から言えば、「スポーツ」が「文化」に入ると、広島カープやサンフレッチェがおり、山本委員には申し訳ないが、「文化」が弱いことはないということになるように、カテゴリーについて共通認識を持たないといけないのではないか。「平和都市」という言い方をされるが、やはり、「国際平和文化都市」という言葉自体の響きが硬いかもしれない。「未来が体感できるエリアを創造する」、「未来を体感するエリアを創造する」といった一つの大きな柱を掲げて、その下に関連のいろいろなものが出てくるといった格好で何本かに分けるということも、一つの選択肢ではないだろうか。

#### 下村副座長

今回、こういった形で五つのテーマを出していただいた。左端のコンセプトは市長が言ったコンセプトであるが、これよりもこの五つのテーマがコンセプトになり、今から考えていくというような形で捉えている。

これを全部組み合わせると、「広島歴史や特性を考え、広島市が標榜している『国際平和

文化都市』にあって、今からの社会環境の変化、人口等の減少、2050年には広島市の人口が約60万人くらいになるという形の中で、広島市もコンパクトシティとして、デルタ地帯の中でいろいろなものを考えていかないといけない。そして、将来の社会変化に適応できる形を考えながら、周辺を含めて経済の活性化につながる未来志向の場とすべき」ということがコンセプトになるのではないか。

これを全部読んだわけであるが、日本で唯一、あるいは世界で唯一という言葉がここに抜けているのではないかと思う。先ほど広島の強みという話があったが、日本で唯一、あるいは世界で唯一ということが加味する視点ではないだろうか。人口の変化など諸々あるが、そういった社会の変化に伴う形で広島が将来的にコンパクトシティとしてどうあるべきかということを含め、我々としては経済が活性化するような形を考えていきたい。

今からいろいろなアイデアが出てくると思うが、このテーマ、コンセプトを頭に入れながらそれぞれのアイデアを提案するように皆さんにもお願いしたい。

今井委員

今、テーマとなる考え方、理念の話をしていると思うが、その前にあるコンセプトについても一度、考えていきたい。「若者を中心としたにぎわいのための場」というものに「若者」がキーワードとして挙げられているが、なぜこの「若者」に焦点を当てたのかということをお聞きしたい。「若者」は今の時代の若者なのか、何年か先の若者なのか、おそらく全体だとは思いますが、その時代にあった若者に対応したものにしていくべきであり、また、この場所自体が未来を考えていく場所であるとして、常に変化していくべきではないかということで、2回目の委員会では変遷型の公園を提案させていただいた。

申し訳ないが、「若者」に焦点を当てた理由をお聞かせいただきたい。

岡野委員

私は、「若者」という言葉が意味しているのは、今育ち盛りの、これからも育つであろう、元気盛んな人たちという解釈をしている。

この文章をどう読むかについてだが、『若者を中心とした』にぎわいのための場、あるいは『若者を中心としたにぎわい』、そのための場」と読むかについて、私は、前者の方の『若者を中心とした』にぎわいのための場」と読んでいる。行政、あるいは我々年寄り、自分たちの感性にあったようなことで物事を考えるふしがあるが、私は、若者も振り向いてくれるような、若者も興味を持ってくれるような、若者も寄ってくれるような、そうしたにぎわいの場を作ろうということで文章を読んでいる。

今井委員

若者がそこでにぎわう、若者がにぎわいを作ってくれるというような考えなのだろうか。

岡野委員

若者も集ってくれる。



## 今井委員

若者もどこからどこまでかというようなこともあろうかと思うが。

## 山野井座長

事務局も、市長の中にある「若者」のイメージがどうなのかということとは分からないかもしれないが、これは個人が判断すればいいのだと考えている。私はこの「若者」というものは例えば、10代、20代、30代でもいいのだが、その方々が年を取ったときに、ここにリピーターとして訪れたときに、そこに若者やいろいろな世代が居るといった場所になればいいのではないかと思っている。単に学生だけが集まるような場所ではなく、老若男女問わず、今はこうなっているが、ここは旧球場があった場所で、こうだった、ああだったといろいろな歴史を語り継ぐ、そういった歴史をしっかりとつなぐ場所であってほしいし、逆に、そういったところから新しい広島文化が発信できるようになると私は理解している。

## 杉山旧市民球場跡地担当課長

正に今言われたとおりで、10人居れば10人なりの解釈があるのだと思う。元々の意味からすれば、岡野委員が言われたように、決して「若者のための場」ということではないである。「若者を中心」というのは「長期的な視点」と書いているが、先ほど委員長が言われたように、今の若者が、例えば、30年後、50年後になったときにもやはりそこがいいものであり、次の世代、その子たちが年を取り、次の世代になったときに、次の世代の若者も楽しむことができる。若者だけをターゲットにしたものではないが、一つのキーワードとして皆さんなりの考えを持って進めていただければよいと思う。

非常に抽象的なものであり、そのコンセプトがなかなか皆さん方でもバラバラということがあるため、今回、五つの理念として整理してみたということである。今日いただいた意見を基に再整理するが、今後のアイデアの評価としては、このテーマとなる考え方、視点なりで議論を進めていきたいとは考えている。

## 山本委員

コンセプトに「若者を中心としたにぎわいのための場」があり、これは市長からの命題であるが、それを受けたものがこの五つのテーマの中にはない。むしろ、これは重要なテーマであるため、「若者」をどう捉えるかということはあるが、どこかに若者に魅力のある場にするというものがなければいけないのではないか。もっと若者が広島でいろいろな文化を享受することができる、文化を発信することができる、創造することができる、そういう前向きな言葉をどこかに入れたいがどうだろうか。

## 吉長委員

「若者を中心」というのは、それは長いスパンで球場跡地が活かされるという意味ではないかと思う。一過性で、例えばあるものを作り、10年、20年したら壊さないといけないということではなく、いつまでもいつまでも将来にわたってにぎわいが創出されるという、長い時間軸を言っているような気がする。年を取った60歳過ぎの人でも若者という時代があった

わけであるから、その人も集う、また、これから生まれてくる赤ちゃんもそこへ出向いていく、そういった感じではないだろうか。

テーマとなる考え方、理念、ミッションについては、五つを並べてずっと議論してもなかなか難しいと思うため、できれば1本に絞り、そこから派生させる方が次の展開がよいのではないか。

#### 岡野委員

吉長委員も言われたように、私は、「若者を中心としたにぎわいのための場」というコンセプトは、いわば下部構造であって、全てに共通した問題、テーマであると考えている。その上にテーマとなる理念、あるいは視点があるが、これは全て、「若者を中心としたにぎわいのための場」ということを踏まえての考え方、理念であり、視点だと解釈している。

しらけたことを言うようで申し訳ないが、これまでの流れを見ると、前回の委員会の途中で委員長が「広島らしさを踏まえて、経済効果を考えた方向を」というような発言をした。下部構造というのは表現が少し悪かったが、いわば「若者を中心としたにぎわいのための場」を基調において、委員長が要約された「広島らしさ」を踏まえて、経済効果も考えてという方向性を見つけたのがこれまでの委員会であったと思っている。しらけたことを言うようで申し訳ないと言ったが、今日の議論のように、具体的な検討の前に、考え方や理念というものの議論に十分な時間を取り、なおかつ、議論がなかなか前に進まないということで、いかにも広島らしいなと私は思っている。

#### 山野井座長

今後の進め方については、別室にいる傍聴者、市民の方にももっと見えるような形で、進める必要があると考えている。この辺りは、次回までに事務局と詰めさせていただきたい。

テーマとなる考え方や理念については、ある程度、方向性が見えてきたと思うが、もう少し言いたいということがあれば、お願いしたい。

特にないようであれば、加味すべき視点の方に移っていきたいと思うが、この加味すべき視点といったことについて御意見があればお願いしたい。

#### 下村副座長

加味すべき視点としては、先ほども出た交流人口ということで、外国人観光客の流入を図るという点がある。ここに日本で唯一、世界で唯一の何かができ、それに伴う外国人等の増加を図り、経済の活性化につなげるようなことができればと考えている。要は、観光客にとっても非常に楽しい場所であるということを加味していただければと思う。

#### 今井委員

先ほど海外からの集客を図るということを挙げられたが、今回、この活用方策が策定された際には、それを市民に説明する内容と、市外に向けて行う説明、これは変えた方がいいと考えており、ただ、変えるということは、内容を変えるということではなく、言い方を変えるということをしてはどうかと考えている。

先ほど、テーマの中の(2)で「平和大通りに直交する丹下健三の都市軸を生かす」ということが市民には分からないのではないかといったことがあったが、確かに市民にこんなことを直接言っても通じないと思うが、ただ、外から見れば本当に素敵なコンセプトであり、都市もデザイン的に整理されていないと、余り魅力的ではないと思われる。もちろん市民にとっては分かりやすい、何か自分たちに還元してもらえるようなことを求めているとは思っているのだが、海外から来られた方や県外から来られた方に対しては、こういった面白い視点から広島市は成り立っているのだということ売りにしていった方がいいのではないだろうか。

渡田委員

下村副座長からいい意見があったが、是非、加味していただきたい。

山下委員

特にこれ以外にということではないが、先ほど、今井委員が言った軸というものは大切に、アピールしなければいけないと思う。

第1回の委員会の際に丹下ラインの話が出たが、そのときに佐藤委員の方からもあったように、丹下ラインは、新しい広島の戦後の生活をつくり出していく空間、人を育てる空間として、特定の階層だけではなく、多くの人が集まる文化施設やスポーツ施設、図書館、公園、特に子どもを重視したようなつくりであったということであった。先ほどのコンセプトや基本のテーマ、考え方、理念にあるように、未来を考えていたということからすると、その延長線上に我々がこれから考えることがあり、具体的には今後の議論だと思うが、文化にしても今まで作り上げたものを将来につなげていく場として、こういった施設を作るのか、そういったところでも、やはり軸というものは大切にすべきであると考えている。

山野井座長

前回のグループ会議の中で「広島らしさ」という言葉が結構出ていたが、皆さんはどういったものが広島らしいとお考えか、お聞かせいただきたい。

佐藤委員

「広島らしさ」は、その左側に書かれているように、考え方や理念のレベルで書いてあるものと、加味すべき視点というところで書かれているものがある。

考え方、理念レベルでは、「国際平和文化都市」、あるいは、「広島の歴史」というところに書かれている「スポーツ王国」や「学都」といった広島の強み、あるいは「水」のような風土、あるいは、先ほど言われた「都市軸」、こういうところを強く意識する必要がある。

加味すべき視点については、「都市景観」というところで特に表現されているのではないかという感じがする。原爆ドームの存在は無視できないため、旧市民球場跡地をデザインする上では、その関係性を意識してデザインする必要があるのではないか。

岡野委員

私自身、「広島らしさ」ということを何度も口にしましたが、今の御質問に対しては、何も分か

らないとしか答えようがない。

人間の血液型でも、A型、B型、O型、AB型と類型化しても、結局中身は何もないというようなことと同じように、我々が「広島らしさ」というものをいろいろ挙げて、要は他のまちでも、そういう意味で話し合えば、結局同じような表現が羅列されて終わるように、我々が「広島らしさ」を語る上では、そういうことになるのではないかと思う。

実は今日の委員会のために、ほんの4、5名ではあるが、2回ほど大手町一丁目では集まりを持った。「広島らしさ」は、何か類型化してそれで決まりというような意味では決まらないだろうが、我々が広島らしいということを挙げようとする、川が6本あり、その河岸が美しいとか、山の交通、海の交通、今は空の交通が少し遠くなったが、本当に交通の要衝であるなど、挙げればいくつも挙げられるものである。

また、どなたかが言ったように、国の中枢が広島にさえあったというような意味での行政機関の集積など、いろいろな特徴を挙げることができると思う。しかし、それを他府県のレベルから見たときに本当に「広島らしさ」ということで認めてもらえるかということ、要するに「広島らしさ」を表したようなものを作るという場合に、他府県から見たときにそれを本当に「広島らしさ」と見てもらえるかということそれは分からない。広島らしいものということであれば、広島を象徴する何かに関係するもの、それはカープやサンフレッチェ、広響かもしれないが、結局、大手町一丁目では、そういった形で、「広島らしさ」と言わざるを得ないのではないかという結論に至った。

#### 山野井座長

一つ、私がテーマに入りたいと思うことを言わせていただくと、この旧球場跡地で発信するものとして、これから新しい広島の文化として育てていくというものがあれば面白いのではないかと考えている。これまでのものとこれからもの、両輪でもって広島から新しい文化を作り上げていこうという未来志向のものがあってもいいのではないかと考えている。

#### 吉長委員

「広島らしさ」というのは、住んでいる私たちはほとんど気付くことがないのではないかと考えている。市の方に広島以外の企業の支店長から寄せられた、広島のよさ、広島に行ったらこんなことがよかったよといったものがあつたと思うが、食べ物で言うと、カキとお好み焼きが「広島らしさ」というような感じで、逆に良さを探してもらうことを逆手にとり、この球場跡地のところに加味していくということも一つの手法ではないかと考えている。

先ほど、岡野委員も言ったが、「広島らしさ」というものは何だろうかというときに、どぎつい広島弁が使えるということが「広島らしさ」かなとも思うが、これは非常に難しいテーマであると思う。

#### 坂村委員

私も「広島らしさ」とは何かと考えた場合に、全然、思い浮かばず、発言にも困るが、単純に、広島で遊ぶところはどこかと聞かれたときに、はっきりと答えられないのが現状ではないだろうか。そこを今から、球場跡地や、まだ何も進んでいない、いろいろな跡地がある

と思うが、そこもトータルで考え、まちづくりをしていくことで今から「広島らしさ」が生まれてくるのではないだろうかと考えている。

#### 今井委員

「広島らしさ」について、昨日、ちょうど大学でそういう話をしていた。一つ挙げたのが、「都合のいい場所」ではないかということであった。それは、第三首都計画として、東京、大阪以外で次に首都を置くのであればということで、災害が少ない場所、かつて大本営があったということで広島が挙げているのだが、そういう意味での「都合がいい場所」ではないだろうかということであった。また、人材が育ってもそれが東京に逃げてしまっているということから、人材を育成できてもとどめておくことができないという問題もあるということであった。つまり、魅力がないというか、とどまる理由がない場所、そういうふわふわした場所というような話であった。

#### 山野井座長

人が出ていかない手法を考えていく、そういったことをテーマに掲げてまちづくりを考えていく必要があるのではないかとも思うが、私も正直、皆さんと同様、「広島らしさ」と聞かれたときに、世界遺産が二つあるが、他に何があるかと考えたときに非常に苦しい。逆に特性を生かして、広島にしかこれがないんだというものを何かこの辺りから発信できれば素晴らしいまちになっていくのではないだろうかと考えている。

#### 渡田委員

細かいことだが、加味すべき視点の(2)のウについては、都市機能の分担のところに入れると少し分かりにくいので、(1)の中のウくらいに入れた方がいいのではないかという気がする。

先ほどの外国人観光客の話は、(4)に「にぎわいの創出や集客が見込まれること」というものがあるため、そこを加工すればよいのではと思う。

先ほど吉長委員から、テーマを少し絞ったらどうかという話があったが、次のアイデアがいろいろと固まってきた段階では、市民向けにも分かりやすく再整理できればいいのではないかと考えている。

#### 山本委員

座長が、文化を創造するというをここに入れてはどうかということを行ったが、これは是非入れてもらいたい。左側のテーマのところには文化が弱いということがあるが、それに対応して加味すべき視点として、文化をもっと創造し、高い文化機能が発揮されるということをしちんと入れておいた方がいいのではないだろうか。今は、景観やにぎわいなどに特化しているため、やはり、文化創造、あるいはそこまで書かずとも、文化活動ができるなどといった視点、それが加味すべき視点ではないかと考えている。

#### 小松委員

「広島らしさ」というものは難しいため、何を言っているのか分からないが、「広島らしさ」

というのは地元の人より、県外の人の方がよく分かっているため、観光客に聞いてみてはどうだろうか。今から作っていくことも「広島らしさ」であると思うが、今までの「広島らしさ」をどう持っていくかということはテーマとして一番難しいのではないだろうか。

#### 山下委員

「広島らしさ」ということで、皆さんなかなか分からないところだと思うが、私は個人的には広島と言われれば、やはりカープだということが発想として出てくる。私は、前回も本物志向という話をさせてもらったと思うが、やはり徹底してやり上げること、それが日本一に育っていくのではないかなと思っている。例えば、神楽という話があったと思うが、それも徹底的に神楽をやり続けるということが外国人観光客に神楽を知ってもらうことになり、広島イコール神楽になるかもしれない、それが育てることなんだと思っている。

サッカー場をここにという話もあるが、サッカーはビッグアーチで徹底して応援する、カープはマツダスタジアムで徹底して応援する、それを発信することによって、やはり広島とは何かということがおのずと外部の方から伝わってくるのではないだろうか。「らしさ」はいろいろとあるだろうが、私は中途半端にやらない、それが世界に発信できる一つの方法であると考えている。

#### 佐藤委員

この考え方や理念、加味すべき視点がどういう役割を果たすべきものなのかということは、1回目、2回目の委員会で出たたくさんの方の意見をこの軸で評価して何を優先すべきかというときの、ものさしになってくるということである。考え方や理念というのは少なくともこれを外したようなものを作ってはいけないという基本的なものだろうと考えている。ここで得点が取れないようなものは作ってはいけないというくらい重要なものである。

加味すべき視点というのは、そういう大局的なものではなく、もっと効果を高めるためにはこういうことを考慮してはどうかという、やや副次的なものではないかと私自身は整理している。その総合点が高いものが旧市民球場跡地に導入すべき機能だということで今後は絞り込みをかけていくのだと考えており、そのように整理すると、加味すべき視点の(1)に書いてあることは余りにも重要なことであるため、これはやはり理念レベル、考え方のレベルに取り込むべき内容が盛り込まれているのではないだろうかと思っている。

「都市機能の分担」や「都市景観」、「にぎわいの創出」、「周辺地域との連携」というのはやはり考慮すべき事項のことだと思うが、一番上に書かれている中枢性や拠点性、あるいは魅力を高めるというのは、外してはならない、この旧市民球場の跡地という特性を踏まえると、外してはならないことではないかと考えている。

また、本来ならば、一番上に旧市民球場跡地の特性や特徴というものが前提条件としてあり、そこには当然のことながら、都心の一角にある公共空間であること、これまでの果たしてきた役割、どういう所有条件なのかといった前提条件が書かれてあるべきで、それによって、この考え方や理念、加味すべき視点がより分かりやすく見えてくるのではないかと思う。

## 今井委員

先ほどの長いスパンで市民から愛されるような場所、若者が年を取ってもまた帰ってきたくなるような場所ということは理解できたのだが、では、全ての時代で皆から愛されるものとは具体的には何なんだろうかと考えると、すぐそばにある平和記念公園、あれはもう誰も否定できないものというか、世界共通の問題を抱えた場所であり、祈りの場所である。それに対抗するものは何だろうかと考えるときに、何かずっと変わらないもの、象徴的なもの、シンボリックなものも必要だとは思いますが、そうではない少し逆の視点からいくようなものもあっていいのではないかと思うようになった。

これは別の話であるが、先ほど、「文化」が弱いという話があった。では、「文化」を強くするということがどういうことなのか皆さんがどのように思っているのかは分からないが、私は、決して発表の場を作ることではないと思っている。「文化」というものは、文明と同じように人が生活し何か発展していくために必然として生まれてくるものだと思っており、「文化」を強くするためにどうしていくべきなのかということも掘り下げていかなければならないのと思うが、そうなるとこの委員会が10か月くらいしかないという中で、何を定めることができるのかということが疑問として残る。また、傍聴席があるが、その方々の反響や市民の反応というものについて、これまで委員会を2、3回やってきた中でどのようなものが出てきているのかということも知りたいと思う。

## 山本委員

「スポーツ」を含めるという話もあったが、「文化」とは、伝統芸能から邦楽、洋楽、文芸、書道といろいろあり、市内にもグループがたくさんあり、各所で発表しているが、要はそのから発信されるものが全国的なレベルとして非常に高い、あるいは国際的にも評価されているといったところまでいくことが望ましいのである。広島市内でやられているものが、そこまでのものかどうかの個別検証はしていないため分からないが、広島には広響などがあり、非常に特徴があるといったことや、オペラ・ルネッサンスをやっているが、地方都市としてはよくあれをやっていると他都市からも見に来られるといったように、他都市にない、優れたものが発信できる、創造できるということが「文化」ではないだろうか。

もう一つ、私はどこに入れたらいいのか分からないが、以前、イベントは絶対に駄目と言われた方がいたと思う。今度、具体的に絞り込みをするのだと思うが、ここは、西飛行場であったり、広大本部跡地、二葉の里とは違い、都心にあって、非常に交通アクセスもよく、市民が気軽に立ち寄ることができる場であるのだから、この利点を生かさないといけないのではないだろうか。これだけの広さがあれば、やはり何か国際的なイベントもそこで開くことができるということを視点として残しておかないと、非常にスケールの小さなものになってしまうのではないかと懸念している。事実、広島県が計画している「World Peace Concert Week in HIROSHIMA」というものを見ると、その一つの候補地がここになっているようである。確かファイナルコンサートか何かだったと思うが、そうなるともっとスケールアップして「文化」の面も含め、何か国際的なイベントを開くことができる、それに対応することができるというようなものを加味すべき視点に入れてもらった方がいいのではないだろうか。

## 吉長委員

都市像として「国際平和文化都市」を広島市は標榜しているが、「国際平和文化都市」のその意味たるは何ぞやと考えると、アの『『国際平和』に比べて『文化』が弱い』という項目をあそこに入れるべきではないと考えている。

広島市の基本構想を見ても、芸能や神楽、スポーツというものが全て入っているわけであるが、ここにこう書いてしまうと、いわゆるアニメーションなど狭義の「文化」になってしまうのではないだろうか。私は、アについては、いわゆる狭い意味での文化活動をより強くするにはどうしたらいいかという視点として、加味すべき、考慮すべき視点のところに入れた方がいいと考えている。

下村副座長は、(1)から(5)までをずっと続けるような形で、これがテーマだというようなことを言われたが、テーマ、コンセプトとしては、例えばある企業では「社会に貢献する」というような言葉があって、そこから派生していくというような感じであるように、私は、「未来が体感できるエリア」、「未来を体感するエリア」にするといったものがほしいと思う。

「長期的な視点」、「まちづくりの視点」という二つの視点があるが、その間に1本の会社の経営方針、跡地の経営方針があればいいのではないだろうか。

## 岡野委員

面白い話題であり、話が横道にそれてしまうが、私は不幸にして、広島市以外に文化都市というようなものを標榜する都市があるのかどうかを知らない。

「文化」という言葉は基本的にはこれは西洋文明というところが生んだものである。例えば、平安時代の和歌であれ、あるいは奈良時代の神楽、あるいは江戸時代の浮世絵をやっていた方々は、単なる遊びで、「文化」というような言葉は一つも意識していなかったと思う。

先ほど、西洋文明の生んだところの言葉ということを行ったが、「文化」というものは、言ってみれば、実業ではない余暇に与えられた人間活動全てが「文化」で、それを意識しないところに本当の意味があるのだと思う。先ほどの「広島らしさ」と一緒に、広島で生まれ育ち、あるいは長年暮らした人間が一生懸命何かをする、そこに独りでににじみ出てくるようなものが「広島らしさ」ではないかという話があったように、「文化」についても同じようなことが言えるのではないだろうか。

私はどちらかと言うと単純な男であり、物事を考えるときに、五つや六つ、あるいは10個、30個もの切り口から考えて評点を付けるというような作業をしたことがないのであるが、我々がこれから具体案を考えるときに、こういった共通の切り口を持っただけでも素晴らしいことだと思っている。

## 山野井座長

これから先、議論を掘り下げていくときに非常に重要なポイントになることについて、皆さんと2回にわたり話ができただけということは、私にとってもすごくありがたいことであり、ここに関しては市民の皆さんにも随分伝わるものがあったのではないかと考えている。

次は、本委員会を開催させていただき、このグループで検討したことを本委員会の中で、もう少し掘り下げて議論し、早目に形が見えるような議論に進めていきたいと考えている。



最後に、皆さんが今後、この球場跡地を活用するに当たって、次の委員会では、こういったことについて話をしてみたいというようなことがあれば、お聞かせいただきたい。

下村副座長

それとは少し違うのだが、今、皆さんで討議した内容を踏まえ、この表を少し作り変えないといけないのだが、事務局の方で、その辺をうまく作り直していただき、次回の委員会に出すというような形でお願いしたい。

先ほど、佐藤委員が言われたように、この場所の特性がこの表の中にあればいいと思うし、加味すべき視点の(1)については、こちらのテーマの方に入るのはではないかということもある。その辺が今回の討議の中で出された非常にいい意見だと思っている。

結論は出ないが、「広島らしさ」は今から創造していくということで、中枢性の高い「広島らしさ」を今から考えながら、作っていければと考えている。

岡野委員

この機能や役割、視点について、まだ、言い足りない内容もあると思うが、今日を含めて4回の会合を開いたのであるから、最低限、ここまでの流れを物語るものを短いセンテンスでまとめていただきたい。

下村副座長

広島は、熱しやすく冷めやすい、また、安芸門徒で、瀬戸内海のように気性が穏やかというようにとがったところが嫌いという人間が多いところであるが、それではいけないということで、「広島らしさ」について、皆さんからまだまだ出していただきながら、次回に結び付けていきたいと考えている。引き続き、積極的な発言をお願いしたい。

山野井座長

次回までに、これまでの議論でどこまで積み上げができていくのかということ、皆さんに分かりやすく示させていただきたいと思う。

吉長委員

岡野委員が言った次回の資料等の整理については、座長、副座長が事務局と調整していただくということでよいのか。

山野井座長

それでよい。

今井委員

前回、私は出席できなかったため、簡単なメモを配付させていただいたのだが、現時点では言葉や文字でしか議論がなされていないため、皆さんが考えているイメージがそれぞれ違っていると思う。何かやはり目に見える形でディスカッションができないかということで、

私は芸術学部に所属しているのだが、大学のチーム数人で、市内のどこかで発表ができないかと考えている。また、御助言、アドバイスをいただきたい。

山野井座長

今後は、今井委員が言ったように、文章だけではなく、もう少し、イメージや形が見えるようなものを作っていく必要がある。今日のテーマを基に、今後は当然費用対効果など、いろいろなことが出てくると思うが、そういったことも踏まえながら進めていく必要があると考えており、その辺りも今後、事務局とどの辺りでそういったものを出していくかといったところも協議しながら進めていきたい。

ある程度、テーマや理念についての検討、また、加味すべき視点についての協議を進めてきたが、この辺りで第2回の検討グループ会議を終了させていただきたいと思う。

今後のスケジュールについては、事務局の方から追って連絡させていただくが、次回はおそらく、4月に本委員会を招集することになると思う。

その他、事務局から何かあるか。

杉山旧市民球場跡地担当課長

今回は委員会ということで、委員長、副委員長と相談させていただき、これまでに検討した内容を少し文章でお示しできたらと考えている。

また、この資料は、今日いただいた意見を基に若干修正させていただき、次回の委員会に提出するというようにさせていただきたい。

山野井座長

それでは、これをもって、閉会する。